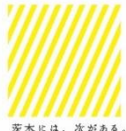


次なる
茨木へ。



茨木には、次がある。

阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会

まとめ

令和2年6月

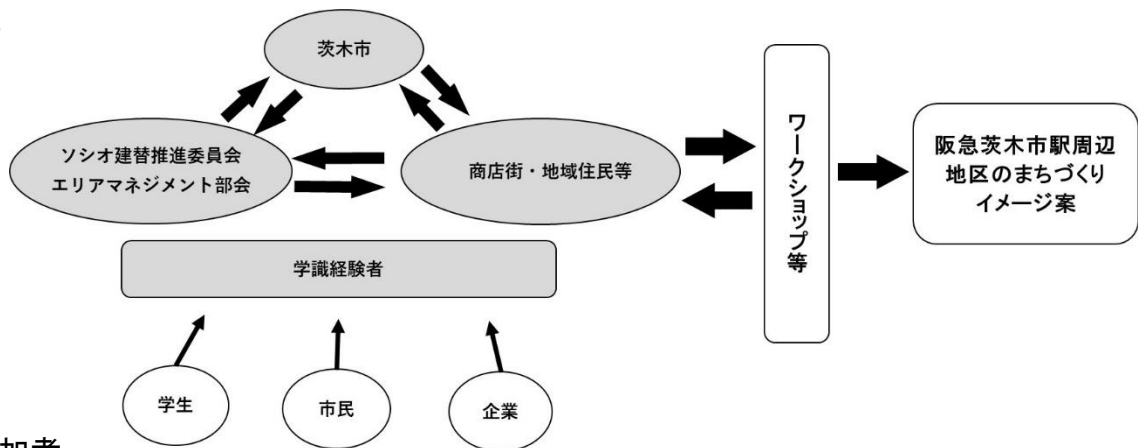
【目次】

1. 目的	2
2. 阪急茨木市駅周辺の現況	3
(1) まちの現況	
(2) まちの特徴	
(3) まちの課題	
(4) 考察	
3. 思い描く暮らしの姿(実現したいまち)	8
(1) 市内の社会実験事例	
(2) 女性座談会	
(3) 思い描く暮らしの姿	
4. 将来のまちの構造	15
(1) まち歩き	
(2) 駅前の役割	
(3) 拠点のつながり	
5. まとめ	20
6. 阪急茨木市駅前将来イメージ	22
(1) 将来イメージに込めた思い	
(2) 阪急茨木市駅前将来イメージ	

資料編：取組みイメージ、活動展開イメージ、第1回～第10回学集会ニュース

1. 目的

阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会(以下、「学集会」とする。)は、阪急茨木市駅周辺の商店会や自治会、ソシオ茨木管理組合、茨木市関係課などが集い、阪急茨木市駅周辺の特徴や課題、各組織の取組状況を共有するとともに、阪急茨木市駅周辺の将来像を展望・共有し、今後のまちづくりへの展開に資することを目的に開催しました。



参加者

- ソシオ茨木管理組合(ソシオ建替推進委員会 エリアマネジメント部会)
- 阪急7商店会連合会
- 茨小校区周辺自治会
- 茨木市(市街地新生課・都市政策課・商工労政課)
- 学識経験者(アドバイザー) 近畿大学総合社会学部 久教授

開催経過

	開催日	参加人数	内容
第1回	平成30年(2018年)8月30日	16名	意見交換：現況と課題
第2回	平成30年(2018年)10月17日	22名	WS:思い描くまちの姿
第3回	平成30年(2018年)12月13日	15名	WS:必要な取り組み
第4回	平成31年(2019年)2月13日	14名	中間とりまとめ
第5回	令和元年(2019年)5月11日	9名	まち歩き：JR茨木駅周辺
第6回	令和元年(2019年)6月28日	10名	WS:どんな駅前が良いか
第7回	令和元年(2019年)9月26日	17名	WS:賑わい等をイメージ
第8回	令和元年(2019年)11月26日	12名	WS:イメージを深めよう
第9回	令和2年(2020年)2月13日	15名	学集会まとめ(案)を議論
第10回	令和2年(2020年)6月25日	10名	学集会まとめを共有
延べ出席者数 159名※			

※参加人数に事務局・オブザーバーは含んでいません。

WS：ワークショップ

※参加人数の延べ出席者数に、女性座談会参加者19名含む。

2. 阪急茨木市駅周辺の現況

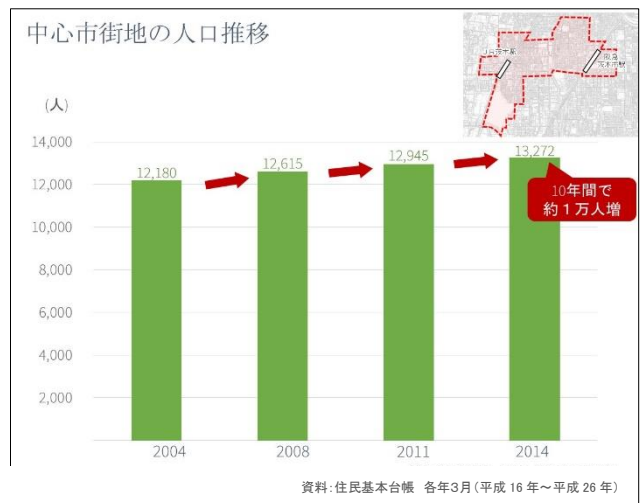
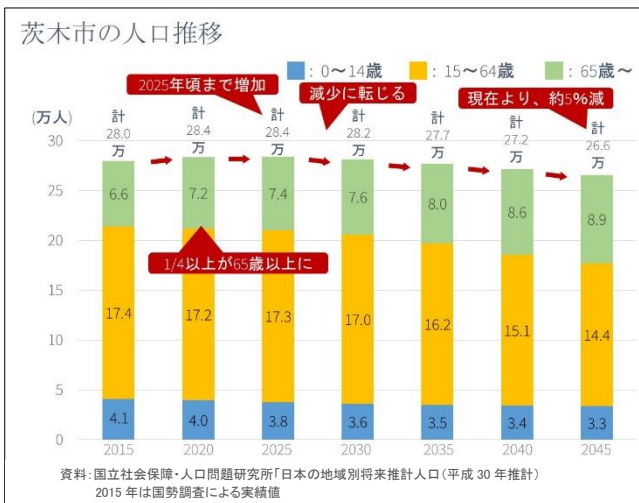
阪急茨木市駅周辺まちづくりの検討にあたり、学集会では、茨木市や中心市街地の現状、中心市街地に関する市民アンケートの結果等を参加者と共有するとともに、駅周辺の特徴や課題等について議論を行いました。

(1) まちの現況

第1回及び第2回学集会では、以下①～⑤の駅周辺の現況について共有しました。

①市全体及び中心市街地の人口推移

市全体の人口は、2025年まで微増傾向が続きますが、その後、減少に転じる予定です。市全体と同様に中心市街地の人口も増加傾向です。



②阪急電鉄沿線の乗降客数

2016年平均では、阪急電鉄沿線のうち7番目に乗降客数の多い駅ですが、立命館大学大阪いばらきキャンパス(2015年4月開設)による乗降客数の増加はほとんど見られませんでした。

阪急電鉄沿線 乗降客数ランキング (2016年平均)

順位	駅名	乗降人数	路線
1	梅田	505,359人	京都線/神戸線/宝塚線
2	神戸三宮	108,868人	神戸線
3	西宮北口	99,441人	神戸線/今津線
4	烏丸	78,825人	京都線
5	河原町	77,488人	京都線
6	十三	67,039人	京都線/神戸線/宝塚線
7	茨木市	58,165人	京都線
8	高槻市	58,125人	京都線
9	武庫之荘	48,451人	神戸線
10	豊中	47,662人	宝塚線

阪急京都線：第5位 阪急北摂の駅：第1位

参考: 阪急電鉄ホームページ

阪急茨木市駅およびJR茨木駅 乗降客数の推移



③北摂エリアの商業集積状況

阪急茨木市駅周辺は、JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺と千里中央地区に次いで、北摂エリアで3番目に商業が集積しています。

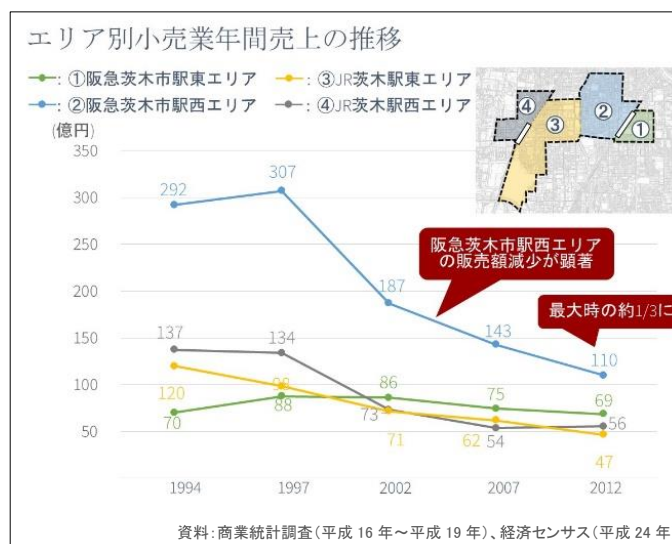
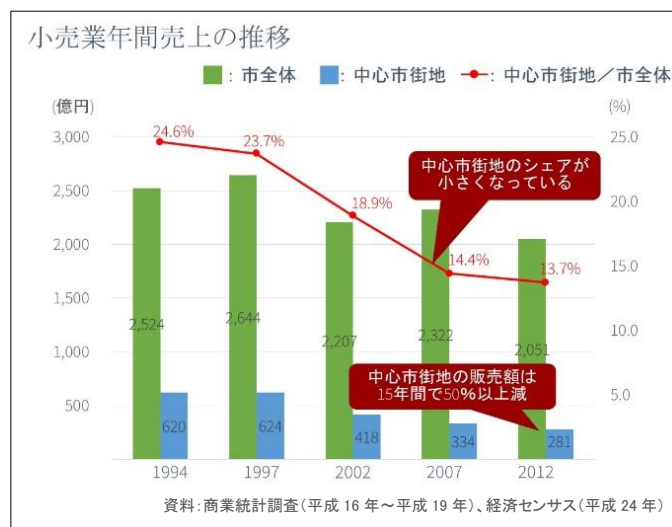
地区名	小売販売額	売場面積
高槻駅周辺	827 億円	78,967 m ²
千里中央地区	515 億円	39,562 m ²
阪急茨木市駅周辺	383 億円	44,990 m ²

出典：商業統計(平成 19 年)

④中心市街地及び当地区の商業動向

中心市街地の小売業年間売上は、1994 年に市全体の約 25%を占めていましたが、2012 年には、約 14%まで低下しています。

また、中心市街地の販売額は 1997 年から 2012 年までの 15 年間で 50%以上減少し、中心市街地で最も販売額が減少しているのは、「阪急茨木市駅西エリア」で最大時である 1997 年の約 1/3に減少しています。



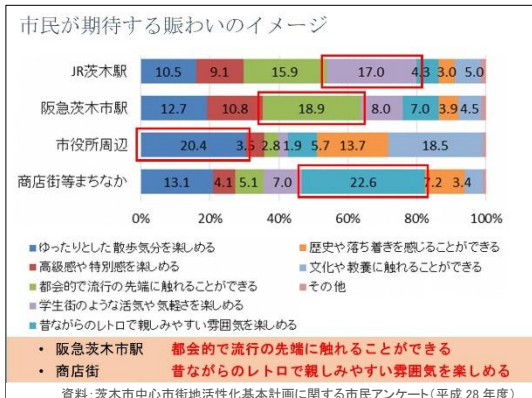
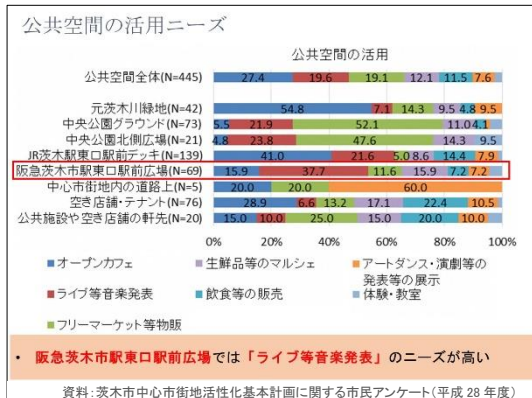
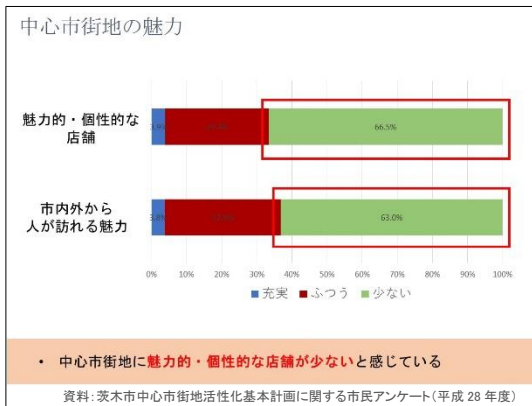
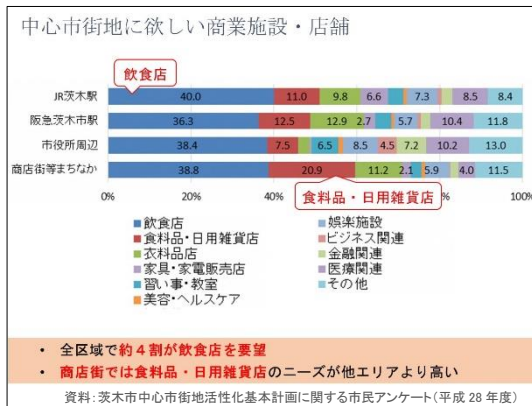
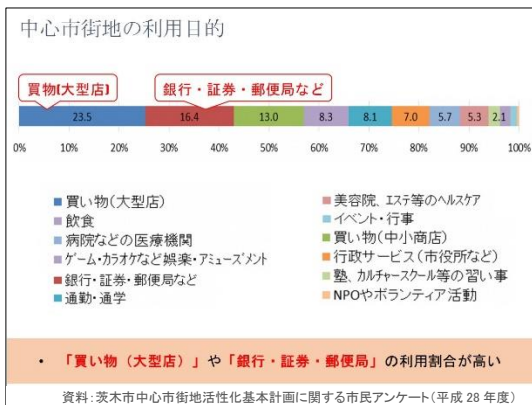
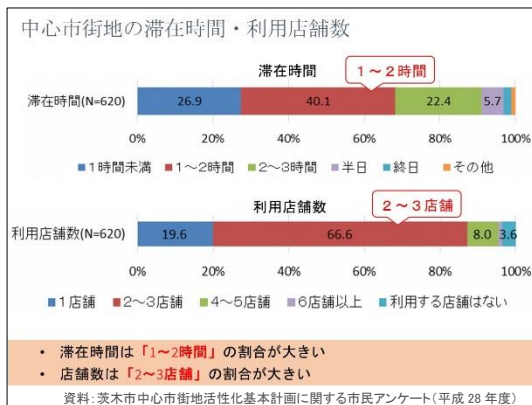
⑤市民アンケート

中心市街地の滞在時間は、2時間未満が半数以上であり、目的は大型店ででの買い物や銀行・証券・郵便局など3店舗以下の利用が多い状況となっています。

中心市街地に欲しい商業施設・店舗は、飲食店が最も多く、食料品・日用雑貨店、衣料品店などの日常生活に密着した施設や店舗のニーズが高い傾向にあります。

中心市街地の魅力は、6割以上の方が魅力的・個性的な店舗が少なく、市内外から人が訪れる魅力が少ないと感じています。

また、阪急茨木市駅周辺の公共空間を活用した取り組みとして、「ライブ等音楽発表」に対するニーズが高く、市民が期待する賑わいのイメージとして、「都会的で流行の先端に触れることができる」が最も期待されており、「高級感や特別感を楽しめる」は他地区に比べて最も期待されています。商店街に対しては、「昔ながらのレトロで親しみやすい雰囲気を楽しめる」が最も期待されています。



(2) まちの特徴

第1回および第2回参加者からの意見は下記のとおりです。

- ①交通利便性が高い。
- ②暮らしやすい・住みやすい。
- ③まちに若い人（世代）が増えてきた。（中心市街地の人口は増加している。）
- ④子育て中のママさんが喜ぶ店がある。
- ⑤リノベーションしたカフェなど、魅力的・個性的な店が増えてきた。
- ⑥中心部に駅や市役所、商店街等がまとまっており、利用しやすい。
- ⑦地震をきっかけに防災の取組みが進んでいる。
- ⑧地元意識が強い方が多い。
- ⑨世代を超えて仲が良い。
- ⑩商店街が多い。
- ⑪イベントが多い。
- ⑫茨木神社・茨木別院などの歴史的資源がある。
- ⑬自然が近い。

(3) まちの課題

第1回および第2回参加者からの意見は下記のとおりです。

- ①商店街は日が暮れるとシャッターが閉まり、人通りが少ない。
- ②商店街は過渡期。商店主の高齢化が進んでいる。
- ③商店街は元気が無い。みんなで何かをやる元気が欲しい。
- ④店舗等を営業するにあたり、土地が高い、家賃が高い。
- ⑤駅から商店街までがわかりにくい。
- ⑥駅前のソシオビルが老朽化し、まちがさみしい。賑わいが無い。
- ⑦バスターミナルが混む。バス乗り場まで行きにくい・わかりにくい。
- ⑧道路が渋滞している。
- ⑨駐輪場が少ない。自転車マナーが悪い。歩道を安全に歩けない。
- ⑩若い人や地域の人が集まる場所、ゆっくりできる場所が無い。
- ⑪子どもが遊ぶ場所が無い。

(4) 考察

(1)～(3)の状況や参加者からの意見を踏まえ、以下のとおり参加者と阪急茨木市駅周辺について考察を行いました。

都市機能

阪急電鉄や阪急バス・近鉄バス・京阪バス、タクシー等の鉄道や公共交通が整っており、鉄道駅周辺には商店街などの商業機能が集積し、駅や市役所等も近くにあり、暮らしやすいまちとなっています。

一方で、幹線道路の渋滞や、駅前広場内の混雑やバス利用の不便さ、歩道が狭く危険を感じるなど交通環境に課題があります。また、駅前には、老朽化したビルが残っていることから、災害対応も含め駅周辺の都市機能の改善が必要です。

利用状況

中心市街地では、音楽や祭り、イルミネーションなどの多様なイベントも開催されていますが、中心市街地の利用は、1～2時間・2～3店舗の利用が多く、駅周辺の商業機能は衰退傾向にあります。

一方で、阪急茨木市駅周辺の人口は増加しており、子育て世代や若者の居住が進んでいますが、子育て支援施設や、子供の遊び場や若いファミリーが利用できる店舗等、若者や地域の人が集まることができる場所など市民が求める利用したい施設・空間が不足しています。

市民ニーズ

中心市街地に、魅力的・個性的な店舗が増えてきていますが、駅前から商店街が見えないなど、駅前とまちとのつながりが不足しており、まちや駅前が寂しい、また、市民ニーズを満たす店舗等の施設や空間及び活動の場が不足していると感じられています。

★久教授からのアドバイス★（その1：今後のまちづくりのポイント）

- 商店街の問題は、全体のマネジメントの欠如です。ポイントは、「様々な方と時間をかけて話し合い、合意形成を図る。」、「当事者意識をもち、行動につなげる」、「まずは元気な人がつながる」ことです。
- 全体方針があれば個々の建替え時につながっていきます。周辺とのつながりを意識したデザインが重要です。
- 大阪市阿倍野区昭和町では、『エリアリノベーション（一軒一軒のリノベーションなど小さな取組みが集まることで、まち全体が変わっていく動き）』と『バイローカル（地域で買い物をしようという運動）』を実践しています。バイローカルで鍵を握っているのは、消費者の消費行動です。
- 滋賀県彦根市花しょうぶ通り商店街のスローガンは、『百の愚痴より十の提案、十の提案より一の実行』です。小さな動きを一つ一つ積み重ねることで街は魅力的になっていきます。

3. 思い描く暮らしの姿(実現したいまち)

(1) 市内の社会実験事例

第3回学集会では、中心市街地で過ごすために必要なものは何か、どのようにしてまちづくりに取り組めば良いかを考えるため、参加者と中心市街地内で実施された社会実験の内容等を共有しました。

①場を開く社会実験(実施主体:茨木市)

(目的)中心市街地の活性化を担う新たなプレイヤーの発掘。
公共空間のあり方を考える。

(取組)公共空間を活用した取組を実施したいプレイヤーを募集し、管理部署との調整や手続き、さらには周知なども市がサポートすることで、公共空間の活用に対するハードルを下げ、企画の実施に繋げる。

(期間)平成28年度 11月～3月
平成29年度 5月～11月

(実施概要・団体)

留学生参加型地域活動「DADADA!?!」

日 時:平成28年12月18日(日)13時～15時
実施主体:立命館大学サービスラーニングセンター
場 所:岩倉公園



いばらきてづくり市inスカイパレット

日 時:平成28年12月～平成29年11月 計8回
実施主体:茨木商工会議所
場 所:いばらきスカイパレット



農の記憶・山の歴史

日 時:9月23日(土)～25日(月) 10～20時
実施主体:立命館大学政策科学部 牧田ゼミ
場 所:いばらきスカイパレット



いばらき駅前コンサート

日 時:平成29年3月12日(日)12～17時
平成29年6月 3日(土)13～16時
平成29年8月26日(土)13～20時
実施主体:The Majestic Jazz Orchestra
場 所:いばらきスカイパレット



茨木えきまえマルシェ
「ショッピングってどこ!？」

日 時:平成29年10月9日(月・祝)13~17時
実施場所:茨木ショッピングタウン会
場 所:いばらきスカイパレット



茨木ショッピングタウン Facebookより

夏のガンバル市

日 時:平成29年9月16日(土)14~18:30
実施主体:茨木商工会議所・茨木市商業団体連合会
場 所:いばらきスカイパレット



立命館防災共育サークルAtelle Facebookより

阪急茨木市駅西口
オープンカフェ社会実験

日 時:平成30年11月19日(月)~24日(土)
7~19時

実施主体:市街地新生課(たたらば珈琲)
場 所:阪急茨木市駅西口2階デッキ



(課題)

- ・現行制度では公共空間を活用するにあたり“公益性”“無余地性”が必要
- ・公共がサポートするにあたっての“公平性”の説明
- ・市民に喜ばれる事業の“質”をどうやって確保するのか

(対応策・対応方針)

- ・公共空間活用に係る“公益性”“無余地性”を問わず開催できる仕組みづくりが必要(例:中活法・都市再生特措法の特例等)
- ・定期的・日常的に質の高い取り組みを行う主体が必要(例:まちづくり会社等)
- ・イベントを行うための設備が必要(例:活用方法を考慮した公共施設整備等)

②広場活用社会実験「IBALAB」(実施主体:茨木市)

(目的)「IBALAB(イバラボ)」は市民会館跡地エリア活用基本構想で示したキーコンセプト「育てる広場」の実現への取組のひとつ。人工台地に期間限定の芝生広場をつくり、どのような過ごし方・使い方ができるのかを考える。実際にみんなでやってみて検証することで今後のエリア整備・活用内容(基本計画)につなげる。

(取組)芝生広場づくりから、企画づくり、実施まで市民のみなさんとともに作り、育てる社会実験



(実施概要)

①芝張りワークショップ(8月26日)



②いばよせ(9月1日・16日・22日・12月2日)
「花に生まれ!みんなで作って育てよう、茨木の奇せ極え」



③ひと箱広場・茨木でラジオ(10月13日・11月24日)



④BOOKTRAVEL@IBALAB・茨木でラジオ(10月18日~10月20日)
(11月15日~11月18日)



⑤こたつでコミュニケーション・茨木でラジオ(11月2日)



⑥IBALABマルシェ(11月4日・23日)



③IBARAKI JAZZ & CLASSIC FESTIVAL(実施主体:民間)

阪急茨木市駅7商店街連合会をはじめ多くの団体や個人の方に後援・協賛いただき実施。アンケートでは、多くの方から「まちの活性化」や「魅力づくり」に役立つとのご意見を頂きました。

また、「会場が狭い」、「ゆっくり座れるスペースが欲しい」等の意見も頂きました。

<p>IBARAKI JAZZ & CLASSIC FESTIVAL 2018.09.15.sat</p> <p>ソシオ茨木2階デッキ連合会・茨木市駅7商店街連合会</p>	<p>会場</p>							
<p>ソシオ茨木2階ピロティ</p>	<p>茨木別院</p>	<p>出店店舗: 7店舗</p> <ul style="list-style-type: none"> • Beer & Music カフェレーズン堂 • 燻製ビストロ Atalu • Mon Ami • 伊藤園 • たたらば珈琲 • リメイク工房 Atelier Iae • ニノマルデンキ 						
<table border="1"> <tr> <td>日 時</td> <td>2018年9月15日(土) 13:00 ~ 20:00</td> </tr> <tr> <td>会 場</td> <td>ソシオ茨木 2階ピロティ ロサヴィア 1階 茨木別院</td> </tr> <tr> <td>来場者</td> <td>3,000人以上</td> </tr> </table>			日 時	2018年9月15日(土) 13:00 ~ 20:00	会 場	ソシオ茨木 2階ピロティ ロサヴィア 1階 茨木別院	来場者	3,000人以上
日 時	2018年9月15日(土) 13:00 ~ 20:00							
会 場	ソシオ茨木 2階ピロティ ロサヴィア 1階 茨木別院							
来場者	3,000人以上							

アンケート結果: 来場者の感想・意見

- ・ アンケート実施者全員が「楽しめた」と回答
- ・ 9割以上の方がこのようなイベントが「まちの活性化」「魅力づくり」に役立つと回答
- ・ 7割以上の方が「来年も是非来たい」と回答
- ・ 阪急茨木市駅周辺の今後のまちづくりへの期待は「イベントによる賑わい」「商業の活性化」「憩いの場の創出」
- ・ ソシオ茨木 2階デッキは賑わっていたが、「場所が狭い」「ゆっくり座れるスペースが欲しい」

(2) 女性座談会

学集会参加者について、男性に比べ女性の出席者が少なかったため、女性目線から駅周辺に必要な施設や駅周辺をどのように活用したいか等について、意見をいただくため、座談会を別途開催し、以下の内容を学集会参加者と共有しました。

日 時	平成31年(2019年)4月25日(木)、令和元年9月13日(金)
目 的	女性目線から、駅前周辺に関すること(満足・不満足な点、駅前してほしいこと等)について意見をいただく
参加人数	19名(市内在住11名、市外在住8名)
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃利用する駅前に対する満足・不満足な点 ・駅周辺でほしいこと・欲しい施設

日頃利用する駅前に対する満足・不満足な点

■ 阪急茨木市駅に対する意見(不満足な点)

● 市内在住者の意見

- ・ 帰宅時に惣菜を購入したい時もある。少し上等なものを購入したいが駅やスーパーがない。
- ・ 手土産になるような品物を取り扱っているお店がない。バリエーションがない。
- ・ 茨木市に良いイメージをもって引越しをしてきたが、殺伐とした駅前である。
- ・ JR茨木駅周辺には岩倉公園やイオンがあるが、阪急茨木市駅には行きたいところが少ない。
- ・ 座れる場所やお茶ができる憩いの空間がない。

● 市外在住者の意見

- ・ ソシオ茨木のデッキはただの通路になっている。もったいない。
- ・ ソシオ茨木は夜になると暗く人通りも少ないため、近寄りがたくて怖い。

■ 他市の私鉄駅に対する意見(満足な点)

● 市外在住者の意見

- ・ 改札を出てすぐに溜まり場(公園など)がある。
- ・ 深夜まで営業しているスーパーがあり、仕事で遅くなった時に惣菜が買えて便利。
- ・ 駅の近くに簡単な食事ができる飲食店、銀行、郵便局があり便利。
- ・ 魅力的なお店があり、道路も石畳であるので歩いて楽しい。

■ 他市の私鉄駅に対する意見(不満足な点)

● 市外在住者の意見

- ・ 子どもができる市役所での手続きが増えるが、日中は仕事で市役所まで行けない。駅の近くに市役所のサテライト(住民票の発行や各種手続きができる窓口)が欲しい。
- ・ 惣菜が充実したスーパーがない。

駅周辺でしたいこと・欲しい施設

■市内在住者

- ・ 茨木野菜の販売店（調理方法の紹介やお惣菜の実演販売も含め）
- ・ 子育て施設（託児所、一時預かり、送迎ステーション、遊び場、おむつを交換する場所、病児保育）
病児保育の場所が遠いので、通勤経路の駅にあると嬉しい
- ・ 医療モール
阪急茨木市駅周辺は、診療所は多いが、それがまとまっていると嬉しい。
自分と子どもが病気の時に別々の場所に行くのは大変。
- ・ ゆっくりできる場所
- ・ 飲食店
一人で利用できるお店、野菜がメインのお店、チェーン店ではないパン屋、健康に留意したお店
- ・ 日用品店（ビジネス服が購入できる店、惣菜屋など）
- ・ 休憩スペースつき店舗空間
- ・ 駅から商店街をつなぎ誘導する空間

■市外在住者

- ・ 子育て施設（病児保育、一時預かり、習い事、子どもを遊ばせる広場など）
子どもが病気にかかり保育園に預けられない時に、最寄りの駅にあると出勤途中で預けられる。
- ・ 託児所付き施設（美容室・レストランなど）
- ・ 子育て系イベント（お昼寝フォト、ベビーマッサージ、手形アート、英会話教室など）
- ・ 美容系（美容室、ネイル、美容家電・化粧品のレンタル・アンテナショップ、衣装のレンタル）
- ・ 健康系（体を動かす施設、芝生広場でヨガ、ランニングステーション）
駅近くにあると通勤前・帰宅時に利用できて便利
- ・ 飲食店（駅前マルシェ、子連れで利用できる店）
- ・ クリニックモール
- ・ グルメな専門店（高級食パン屋など）

【女性目線の当地区に必要な機能・施設】

- ・ 子どもが自由に遊べる空間
- ・ 緑に触れることができる空間やゆっくり過ごせる空間
- ・ 健康に留意した飲食の提供
- ・ 急な子どもの病気に対応できる施設
- ・ 託児所付の施設（レストランや美容室等）
- ・ 出勤や帰宅ついでに利用







- 芝生広場、緑化空間
 - 魅力的な飲食店、惣菜店
 - 病児保育施設、子育て支援施設
 - 送迎ステーション
- 等が必要

(3) 思い描く暮らしの姿(実現したいまち)

第2回および第3回参加者からの意見は下記のとおりです。

実現したいまち

- ・ 休憩できる、憩える、多世代が交流できる、イベントができるなど、多目的に活用できる場所が欲しい
- ・ 渋滞解消、自転車・歩行者の安全 
- ・ 駅～商店街、JR 茨木駅～阪急茨木市駅のつながりがあり、歩きたくなるまち 
- ・ 駅前や商店街など中心地に人が集まり、賑わっているまち(平日も) 
- ・ 安全・安心で多世代が楽しく、笑顔があふれるまち、住みやすいまち
- ・ 若い人が来てお店を利用してほしい、インハウンドの取り込み 
- ・ 茨木神社や川端康成など地域資源を活かす
- ・ 地域交流、住民のネットワークがある、自分発信の人がたくさん生まれるまち
- ・ 北摂地域で競い合い、メディアを介して、まちの工夫をアピール合戦してはどうか

どのような暮らしをしたいか

- | | |
|-----|---|
| 日常 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 陽のあたるスポットで休憩したい ・ 日常生活に音楽がある暮らしをしたい。音楽があふれる街 ・ 外で音楽を聴いたり、人と会話したりなど、何かをしながら飲食する ・ コーヒーを飲みながら読書をしたい ・ ゆっくりコーヒーを飲む休憩場が欲しい ・ 女性などが、ゆっくりランチできる場所が欲しい ・ 駅周辺で買い物がしたい ・ 誰かに薦めたくくなるようなお店(飲食・物販等)が増えて欲しい |
| 交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な年代が街中に集まって欲しい ・ 多世代交流のある暮らしがしたい ・ 知らないオッチャンとの関わりが茨木の良さのひとつ ・ 近隣住民と助け合えるまち ・ 色々な人(広場で出会った人、買物客など)と自然と会話が生まれる |
| 賑わい | <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の活気を取り戻したい。チェーン店ではなく、地元店舗が賑わっている ・ 食べ歩きが出来るまち(学生など) ・ 子どもがワクワクできる街、楽しめる街になって欲しい ・ 街中で子ども・家族と遊べる ・ 若いファミリーがまちを歩く。親子や家族で集まれる飲食店が欲しい ・ 着物を着てまち歩きやイベントをしたい ・ 駅前から茨木の良さを発信したい |
| 活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ソシオ2階通路を活かしたイベントをしたい ・ 周辺の古い街並みを残したい ・ 歴史とにぎわいにこだわったまちにして欲しい |
| 回遊 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩きやすいまち ・ 街中には商店街や中央公園、元茨木川緑地など魅力的な場所がある。人が集まる駅前を拠点にそこからの回遊性を向上させたい |
| 広場 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 広場で自由な活動がしたい ・ 広場でバーベキューがしたい。商店街(肉屋や八百屋)で食材が揃う ・ 芝生広場で寝ころびたい ・ 街中の広場や公園でゆっくり過ごせる |

★久教授からのアドバイス★(その2: エリアマネジメント)

- ・ イベントは、どのような魅力があれば常にたくさんの人が訪れてくれるのかを考える良い契機です。マネジメントは、誰かが全体を調整し、然るべきところに然るべきものを置いていく作業です。みんなまでマネジメントして、まち全体を使い倒すための知恵やアイデアを出し合ひましょう。

4. 将来のまちの構造

(1) まち歩き

第5回学集会では、阪急茨木市駅周辺のまちづくりを考えるため、立命館大学大阪いばらきキャンパスの開設や、JR茨木駅の駅舎改良及びスカイパレットの整備等、JR側のまちの構造が大きく変わっていることを「まち歩き」を実施し確認しました。

【まち歩き経路】



① 岩倉公園・立命館大学・イオン～JR茨木駅

岩倉公園は、立命館大学の開設に合わせて整備された防災公園であり、大学との境に塀が無く、大学と一体となった空間整備がされていました。

また、立命館大学は、「地域に開かれた大学」というコンセプトから、岩倉公園に隣接する市民開放施設(立命館いばらきフューチャープラザ)内に、本を介した人々の出会いや交流を生むコミュニティ型のライブラリー「まちライブラリー」を設置するという取り組みを実施していました。

さらに、岩倉公園周辺の都市計画道路整備が進み、阪急南茨木駅やモノレール宇野辺駅からの歩行空間や、JR茨木駅からの歩行者専用道路等が整備されたことにより、当地区へのアクセスが容易になっており、都市計画道路茨木松ヶ本線のJRアンダーパスを通り、イオンやJR茨木駅までのアクセスを実際に歩きました。



岩倉公園



まちライブラリー

②JR茨木駅東口駅前広場(いばらきスカイパレット)

JR茨木駅東口(愛称:いばらきスカイパレット)は、2階にデッキ広場が整備され、イベントスペース約 230 m²が設けられており、音楽イベントや手作り市、マルシェなどの開催に利用されています。

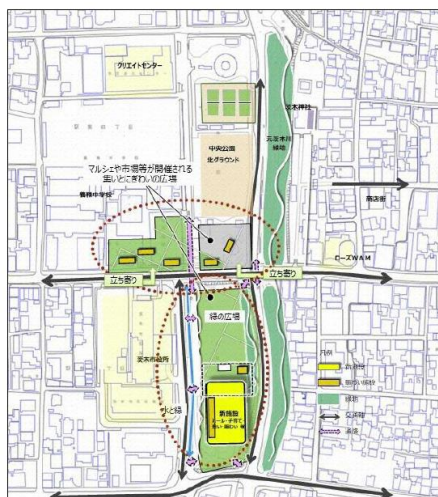
一方で、デッキ広場の位置付けが道路法上の道路であるため、様々な使用上の制限が有り、利用にあたっての手続きなど、利用が進まない現状があります。



③市民会館跡地エリア

キーコンセプトに「育てる広場」を掲げ、導入施設は、子育て支援施設や、ホール機能、サードプレイス、普段使いできる交流とにぎわいの空間等の整備を実施しているエリア。

文化施設だけでなく、芝生広場などの憩いの場も設け、元茨木川緑地や川端康成文学館など自然・文化的要素の南北軸の拠点とし、JR茨木駅と阪急茨木市駅の中間に位置し、人の移動や活動の中継し、回遊が生まれるような都市的要素の東西軸の交点として、人が集まる場所となること、まちづくりの起点となることを目指しています。



<各導入機能における整備の方向性>

- **ホール機能「市民の“ハレの場”**
・市民利用を中心とするホールとし、市民が使いやすい規模、形態、設備を備え、発表会や講演、行事、イベント等、多目的に利用できる市民にとっての特別な「ハレの日」にふさわしい場所とします。
- **憩い「サードプレイス」**
・芝生が広がる公園など、中心市街地でありながら、線に囲まれゆったりとした空間の広がる「憩い」の場とし、誰もが心地よく憩うことのできるサードプレイスをめざします。
- **にぎわい・交流・中心市街地活性化「普段使いできる交流とにぎわいの空間」**
・施設の入り口には大屋根を設置することで、屋内外をつなぐオープンな中間領域とし、ステージや催事スペース、ダンスの練習など、誰もが気軽に、自由に活動できるスペースを作り、日常的にさまざまな人が交流する「にぎわい」の空間とします。
・施設・広場のデザインを魅力的なものとし、中心市街地として魅力ある環境創造、地域の価値の向上をめざします。
- **子育て支援「いばらき版ネウボラ」**
・子育てに関する切れ目のない支援を実現する拠点施設を設置します。
・一時預かりや相談窓口、母子保健機能のほか、子ども向け図書や遊びのスペースなど、遊びに来たついでに相談でき、子どもが集まることで情報交換や交流ができるような場所にします。

※本計画では、基本構想において整理した各導入機能に基づき、具体的な導入施設や規模等を検討します。

④茨木にぎわい亭

平成 19 年にまちづくりの拠点として阪急本通り商店街に駐輪場とイベントスペースや交流サロン、会議室等を備えたまちづくり交流ステーションとして茨木商工会議所によって運営されています。

⑤まち歩き参加者の感想

- 立命館大学がまちに開かれた大学になり、まちが生まれ変わったことを実感した。阪急茨木市駅前も、老朽化した状態から、まちに開いた場所へ早く変えるべきと感じた。
- 子どもが立命館大学に通学しているが、初めて歩いた。
- まちが変わっていた。マンションが増えていてどうなるのかと思った。住居だけでなく、1階にはスーパーなどの施設があるビルは良いと思う。
- 茨木はバス通りと商店街があり、規模は違うが京都の錦市場と四条通りに似ていると思った。錦市場と四条通りのようなイメージで進めていきたい。
- 行ったことがなかった。大学が来たことでここまでまちなみが変わるのかと感じた。JR側とは異なる考えで阪急側は進めなければいけない。
- 改めて歩くと良いまちと感じた。暮らしている感覚と訪問者の感覚にはズレがある。他市町から来た方は茨木に来るとホッとする・落ち着くと言われたことがある。みどりを維持しながらまちづくりを考えていきたい。
- 立命館大学から阪急茨木市駅までは高低差もなく、ゆったりとまち歩きできる。スポット情報を発信すれば、もっと楽しくまち歩きができる。情報発信拠点を設け、市民の方だけでなく他市からの来街者に情報を発信することができればと思った。
- ファミリーや学生、主婦が多くて良かった。商店街にもこういう人が来れば良いまちになる。まちににじみだすことがあれば。スカイパレットは使えるスペースが少ない。茨木神社から商店街までがマンションに変わっていくのかと思った。
- 岩倉公園とイオンをつなぐアンダーパスは、利用している方が多い印象を受けた。アンダーパスの利便性が高いこともあるが、やはり岩倉公園やイオンという拠点があり、人が向かう目的になっていると思った。阪急茨木市駅にも目的性の高い施設を整備し、拠点化を図ることでまちをつなげていければ良いと感じた。
- にぎわい亭は古い建物のリノベーションによって新しい役割を担い、商店街の中での存在意義を示している。
- 本町商店街では、マンションの建て替えが目立っている。阪急側は歴史のあるまちでもあるので、良いものを活かしたまちづくりを考えていければ。

★久教授からのアドバイス★（その3：まちの変化）

- 市中心部にある駅と駅は、程よい距離にあります。立命館大学は開かれた大学であり、塀がありません。立命館大学ができる前は阪急南茨木駅からJR茨木駅まで歩く人はいなかったのではないのでしょうか。現在は、立命館大学や岩倉公園で休憩ができるため、阪急南茨木駅からJR茨木駅まで歩けるようになっています。阪急茨木市駅周辺は拠点としてまちに開かれているのか、閉じているのか、周辺に対してどのように広がりを持たせるかを考えてないといけません。
- 阪急側は歴史のあるまちです。全体のつながりを意識しながら新しいものや古いもの、歴史的なものを活かして魅力づけすることも大切です。

(2) 駅前の役割

第6回学集会では、参加者のイメージする暮らしを実現するため、どのような駅前が良いか意見をいただきました。

また、駅前の拠点として必要な機能について、学集会と女性座談会の参加者に対しアンケートを実施しました。

拠点（駅前）の役割

- ・緑が多く、色々な活動が生まれるような人が集まる空間（芝生広場）。
- ・駅前の広場が起点となり、商店街や市民会館方面に人を導く。
- ・自分の活動を発表できる場所。（自分の活動を発表したい人は大勢いる）
- ・保育所、小児科、病児保育などの子育て支援
- ・多目的な活用ができる空間や子育て支援等を備えた商業の中心。
- ・魅力的な商業の立地。
- ・駅前通りを意識した駅の顔づくり、つながりが必要。
- ・川端康成の像を設置するなど茨木のシンボル空間。
- ・駅前居住。（茨木市の中心市街地は人気が高い）
- ・中核都市としての駅前づくり。

【アンケート結果】

必要な機能		理由
1位	憩える機能 （休憩施設・緑地・芝生広場）	駅前には賑わいが似合う。開かれたデザイン 茨木は元々商業で栄えたまち など
2位	賑わい機能 （商業施設・交流機能）	のんびりとして茨木のイメージが駅前に欲しい。 市民が駅前へ集う理由になる など
3位	子育て支援機能 （保育施設・遊戯施設）	子育てがしやすい街として人が集まり始めている。 子ども連れに気軽に利用して欲しい。駅前は便利 など

必要な機能	1位(3点)	2位(2点)	3位(1点)	計
①賑わい機能（商業施設・交流空間）	21	0	1	22
②憩える機能（休憩施設・緑地・芝生広場）	6	18	0	24
③子育て支援機能（保育施設・遊戯施設）	9	0	4	13
④文化機能（教養施設）	0	0	0	0
⑤観光交流機能（観光案内所）	0	0	1	1
⑥医療機能（病院・診療所）	0	4	3	7
⑦交通機能（安全な歩行空間・電車・バス、 自転車等の円滑な乗換）	3	4	2	9
⑧景観機能（まちの顔としての景観形成）	3	2	0	5
⑨防災機能（避難所、備蓄倉庫）	0	0	1	1
⑩業務機能（オフィス）	0	0	0	0
⑪住居機能（集合住宅）	0	0	1	1
⑫その他	3	0	0	3

(3) 拠点のつながり

阪急茨木市駅周辺と中央公園が拠点としてどのようにつながれば良いか、参加者からの意見は下記のとおりです。

拠点のつながり（駅前と中央公園）

- 駅と中央公園をつなぐルートは商店街と駅前通りの2つ。商店街は歩行者中心、駅前通りは歩行者と自転車中心。
- 商店街を通れば雨の日でも神社近くまで通行でき、この利便性を活用できないか。
- 中央通りを一方通行化し、自転車や歩行者空間を確保する。
- オシャレなストリートにこそ、オシャレなカフェが出店する。現状の駅前通りはそのような通りになっていない。
- 阪急茨木市駅⇄商店街⇄中央公園のつながりができれば、商店街にも人通りが戻ってきて、賑やかな店舗が出てくるのではないか。
- 阪急茨木市駅に降り立った時に商店街が見えるような駅前になって欲しい。
- 阪急茨木市駅前の再整備が中央公園までのつながりや連携のきっかけになれば良い。

まちの構造として、中央公園までの主な人の動線は、商店街を通るルートと、中央通りを通るルートがあり、駅前だけでなく、人の動線に沿った賑わい創出や、憩いの場所を整備することが拠点のつながりを作るために必要です。



5. まとめ

阪急茨木市駅周辺のまちづくりについて、これまでの議論を踏まえ、まちの特徴や課題、将来像等について、以下のとおり、整理しました。

	現状・課題	将来に向けたまちへの想い
機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地に交通や市役所、商店街等が集約され、生活利便性は高い ・ 道路の渋滞やバス乗り場の案内不足など、交通環境の改善が必要 ・ 若い人や地域住民が集まる場所、子どもが遊べる場所などが不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通環境の改善により、歩行者や車両の安全性・利便性の向上 ・ 休憩・多世代交流・イベント開催など多目的に活用できる空間の創出 ・ 憩いや賑わい、子育て等に必要な機能の確保
商業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地の人口は増加しており、イベントをすれば人は集まる ・ 魅力的・個性的な店舗が不足 ・ 商店街店主の高齢化、閉店時間が早い、休憩場所が少ない等、商業の中心地としての賑わいや魅力が低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩いて楽しいまちづくりの演出など全体のマネジメントによる回遊性の向上 ・ 魅力的・個性的な店舗が多い商店街などがあるまち
つながり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民力が高く、イベントが多い一方で、横の繋がりは不足 ・ 駅前から中央公園までのつながりが不足 ・ 駅から商店街への経路も分かりにくく、駅と商店街のつながりが不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅から中央公園までの動線である商店街や中央通りで多様な活動ができる場所があり、地域交流や住民等とのネットワークにより、自分発信の人が生まれるなど、まちと人、人と人、人と活動がつながるまち

将来像1: 便利で快適なまち

機能性

- 安心・安全に利用できるまち
- 新しい都市機能を付加した誰もが使いやすいまち

将来像2: 魅力あふれる活力のあるまち

個性

- 魅力的な商業や賑わいのある空間のあるまち
- 歩いて楽しいまち

将来像3: まちと人をつなぐ拠点

シンボル性
場所性

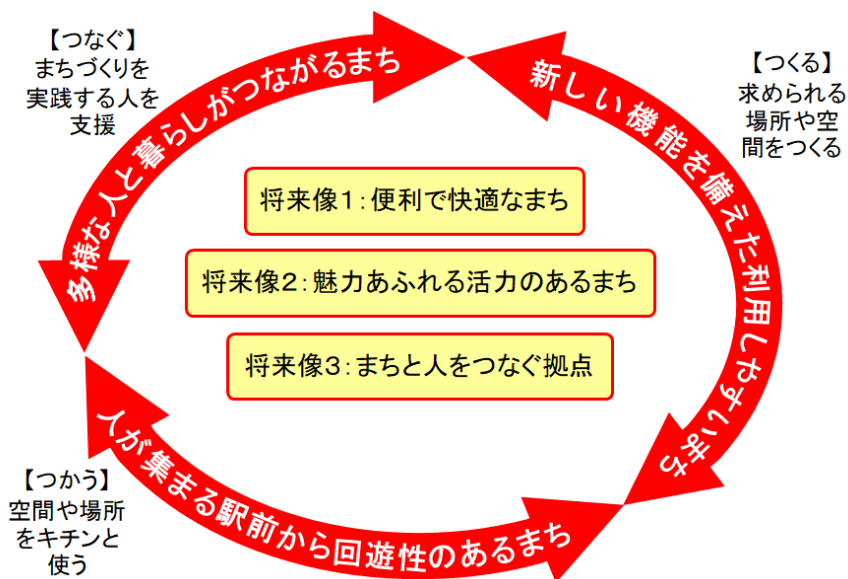
- まちと人がつながり、市中心部を回遊したくなるまち
- 全ての世代が訪れ、人と人、人と活動がつながるまち

地域や暮らしをより良くするため、これらの将来像を実現していくには、多様な方が力を合わせ、同じ方向性を持ち、まちづくりに取り組んでいくことが大切です。市民や事業者、行政は、それぞれの取組みを実行していきますが、その取組みは下記のような関係にあり、いわば運命共同体と言えます。

【つくる】求められる場所や空間を作ることによって、新しい機能を備えた利用しやすいまちになる。

【つかう】空間や場所をキチンと使うことによって、人が集まる駅前から回遊性のあるまちになる。

【つなぐ】まちづくりを実践する人を支援することによって、多様な人と暮らしがつながるまちになる。



必要な機能	具体的な活用・過ごし方のイメージ
憩い	<p>自然が感じられ思い思いに過ごせる広場</p> <ul style="list-style-type: none"> 広場を利用する各人が季節を感じたり、休憩、読書、イベント参加、音楽鑑賞、友人との待ち合わせなど、思い思いに過ごす広場 歩くだけで気分が良くなる、楽しくなる街並み 駅と商店街の動線沿いやビル屋上に広場（芝生）があると良い など
賑わい	<p>生活に潤いを与える魅力的な空間</p> <ul style="list-style-type: none"> 記念日や仕事帰りに遅くまで利用できるカフェや飲食店 シニア世代がちょっとカッコつけられる、大人がデートできるお洒落なお店 天候に関わらず音楽やダンス等のイベントが開催できる屋内広場 イベントがなくても飲食等の利用ができる広場 など
子育て	<p>地域ぐるみの子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢の子ども（未就学児～小学生）と一緒に利用できるカフェ 子育てサロン等で学生が放課後や休日のお手伝い、子ども用イベント開催 子どもが急に病気になった時でも対応できる施設（病児保育など） 託児所付きの施設（レストラン・美容室など） など

6. 阪急茨木市駅前将来イメージ

学集会は、阪急茨木市駅周辺の将来像を展望・共有し、今後のまちづくりへの展開に資することを目的に開催してきました。学集会において議論された将来像について、多くの方と共有するため、阪急茨木市駅周辺地区のまちづくりイメージ案を作成することを目標としていました。

将来イメージは、阪急茨木市駅前の概ね30年後の姿をイメージした絵を学集会の成果として作成いたしました。学集会にご参加いただいた One Art Project の稲垣氏、藤本氏にご協力を得て描いていただきました。

また、将来イメージは、市役所方向と阪急茨木市駅前方向の両方向を意識して作成されており、上下反転してどちらの方向からでも楽しめる絵にしています。

(1) 将来イメージに込めた想い

『中心市街地に人が集まり、憩いや賑わいがある“いばらき”で暮らしたい。』
そのために、「まちを車中心から人中心に変えたい」、「駅前に憩いの広場をつくりたい」、「歩いて楽しいまちにしたい」そんな想いを一枚の絵に込めました。

最も大きく描かれている駅前の『憩いの広場』は、“たまる空間”と“つなぐ空間”の役割を持っています。この二つの空間は、市民や駅利用者が日常的に利用でき、周辺の方々と協働した取り組みの実施など多様な活動の『場』となります。また、沿道での魅力的な取り組みや店舗が周辺地域へ人を誘うなどハード・ソフト両面でまちとつながる拠点となります。

駅前から市役所方面と商店街方面に続く2軸の動線を活かし、まちに開かれた、ゆとりのある空間になるよう充実が図られています。2軸の動線は、歩行者が快適に通行できる空間となり、店舗など周辺建物と一体となった魅力も生まれています。

『中心市街地に人が集まり、憩いや賑わいがある“いばらき”で暮らしたい。』という想いに合わせて、暮らし方やまちの姿は変化していく必要があります。今回、描いた一枚の絵がその変わる【きっかけ】や【道しるべ】になれば幸いです。

★久教授からのアドバイス★（その4：これからのまちづくり）

- 都市計画家の小林重敬先生は、エリアマネジメントの考え方やまちづくり協議会をはじめ、みんなで街を考えて作り、動かしていくことが重要と話されています。
- これからのまちづくりは、市民との協働により、一人ひとりが街のことを考え、人と繋がることで面白く魅力のあるものにしていける時代となっています。
- Tactical Urbanism という本には『Short-term Action for Long-term Change』（長期間の変化を起こすための短期間の活動）という言葉があります。短い期間の取り組みであっても何回も繰り返し、日常化することにより街が変わっていき、街を楽しくし、居心地の良い空間にする活動です。このような活動をこれからも続けていただきたいと思います。

阪急茨木市駅方向

